

「業界時局講演会・交流会（9月30日）」開催の可否判断について

— 9月12日（緊急事態宣言解除予定日）の状況で最終判断いたします—

兵庫県印刷工業組合
理事長 武部 健也

日本国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認されたのが2020年の1月15日、その後累計1,473,182名が感染し、16,004名が死亡するという事態になりました。（2021年8月30日現在）この間、幾度となく緊急事態宣言が発令されたり、まん延防止等重点措置がとられました。

兵庫県におきましても、2020年4月7日を初めとして、現在まで4回の緊急事態宣言と3回のまん延防止等重点措置がとられています。

この間、兵庫県印刷工業組合におきましては、上部団体である全日本印刷工業組合連合会の「感染予防措置を十分に講じたうえ、可能な限り経済活動を活発化させる」という方針に沿い、組合事業活動を行ってまいりました。しかしながら多くの行事が中止あるいは規模の大幅縮小を余儀なくされました。製造業のなかでは珍しく、印刷業はあらゆる業界にお客様を持つ業種であることから、経済活動を行うことでお客様のお役に立てるとも考えており、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

一方で医療関係の方々がお客様であることもあり、その取り組みは慎重でなければならないとも考えております。

2021年9月30日に予定しております、業界時局講演会・交流会の開催の検討を始めたのは2021年6月であり、その時点での政府発表のワクチン接種計画等の状況を基に、9月には集団免疫を獲得し、収束に向かう時期にあたりと判断し開催を決定いたしました。

その後はご存じの通りワクチン接種が一時中断したり、デルタ株が猛威を振るうなど、想定外の感染拡大状況に陥りました。

そして、この度10月8日に予定されていましたが「2021全日本印刷文化典長野大会」が中止ということになりました。準備を進めてこられた長野県印刷工業組合の皆様、実行委員会の皆様の心は察するに余りあります。

我々は緊急事態宣言解除予定である9月12日の状況によって、開催の可否を最終判断したいと考えております。最終判断が大変遅くなることをご了承いただきたく、現状をお知らせさせていただきました。

中止する理由は考える必要もありませんが、最後の最後まで実行する方法を模索し続けている兵庫県印刷工業組合の理事会の姿勢にご理解をいただければ幸いです。

賛否両論あることは重々承知しておりますが、各位の理性的ご高察を信じ、建設的意見をいただき今後の組合活動の指針としてまいりたいと考えております。

重ねまして皆さまのご理解を心よりお願い申し上げます。